

3 私たちが意識していくこと、私たちの共有目標

～安心して住み続けられる菟野町であり続けるために～

—基本目標—

基本理念に基づいたまちの将来像の実現に向けて、私たち一人ひとりが主役となり、心を一つにして取り組みを進めるため、すべての分野で意識すべき基本目標を次のとおり掲げます。

(共通) 住民自治と将来に引き継げる行財政運営

≫ ≫ 財政状況を踏まえた中での課題解決

近年の厳しい経済情勢や社会の変化の中でまちづくりを進めるためには、持続できるしくみを持つことが非常に重要です。人口減少時代を迎え、社会保障費の増加などによる財政の硬直化（自由度低下）が顕著になってきているなど、国、地方自治体は財政的に疲弊してきており、新型コロナウイルス感染症の発生により、更なる財政負担を強いられています。このような中、まちづくりに対する住民ニーズは、複雑化かつ多様化し、まちづくりの様々な課題を行政だけで解決することはますます困難になってきています。

≫ ≫ 一人ひとりが支えあう住民自治によるまちづくり

「自治」とは文字通り「地域を自ら治める」という意味ですが、高度成長期以降のわが国では、社会の分業化が進み、菟野町においても少なからず「自治」の意識が薄れてきました。

これから迎える本格的な人口減少の社会においては、地域を支える担い手の数がどんどん減っていきます。そうした中でも地域の活力を失わないためには、「ないものねだり」、つまり今存在しない担い手を求めるのではなく、「あるもの探し」、例えば元気な高齢者の活躍などにより、担い手を見つけていくとともに、私たち一人ひとりができることを担い、支えあうことが大切です。

一方、行政においては、公共施設やインフラの更新など、直面している課題について、住民の理解を得て、人口減少社会の中でも財政面において持続可能なまちづくりをしていく必要があります。私たちが人任せにするのではなく、まちづくりの主体となって住民自治を担い、生活に支障をきたすことのない、持続可能なまちづくりの実現を図っていきましょう。

≫ ≫ 技術革新を活用したまちづくり

あわせて、社会は Society5.0 と呼ばれる技術革新の時代を迎えています。そこでは人工知能（AI）やロボットの技術により、これまではできなかった課題解決ができる可能性が広がります。しかし、こうした技術を使うのは私たち人間です。私たちの主体的な活動が必要であることは変わりません。また、そうした技術革新から取り残される人がいないようにしていくことも大切です。

これらのことを踏まえ、私たちは次のとおり目標を定めます。



人任せではなく、

基本目標-共通 今後も持続可能なまちを 私たち自らが支えよう

» » 住民のまちづくりへの参加

私たちは、菰野町の強みである地区組織やつながりの風土に根ざした住民主体の活動が継続し、発展するよう、助けあいや支えあいの心を次世代に引き継ぎ、住民同士の情報共有と交流の場などのしくみづくりをし、自助、共助の意識により協力しあえる関係を持った地域社会を形成していきます。老若男女を問わず、多くの住民がまちづくりに参加することを目指します。

» » 信頼される行政運営

行政は、住民のまちづくりへの参加を支援していきます。Society5.0を意識し、誰一人取り残されないよう対応しつつ様々な技術革新の活用を常に検討しながら、選択と集中による効率的で責任ある財政運営を行うとともに、災害や感染症発生時など非常事態下のリスク管理を見据えるなどし、住民から信頼される行政運営を進めます。

» » 地域社会と行政がそれぞれの役割を果たすまちづくり

こうして、地域社会と行政とがそれぞれの役割を担い、補完しあう中で、自助、共助、公助のバランスを保つことで、「安心して住み続けられる菰野町であり続ける」ことを目指します。

この共通基本目標は、次の4つの基本目標に共通する指針となるため、行政はこのことを意識して信頼される適正な行政運営を目指します。私たちは一人ひとりができることを担い、支えあうとともに、自らの役割を果たすことで、これを支えましょう。私たち一人ひとりがまちづくり、地域づくりの主役です！